

18

い お お た に
伊尾・小谷たえクラブ

地域ぐるみによるダルマガエルを保全する水田の耕作と環境教育・農業体験の実践



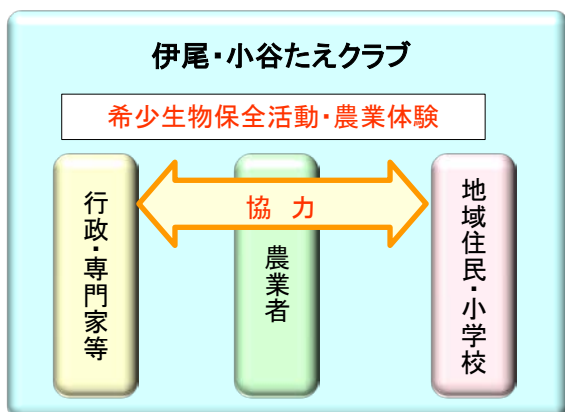
活動名称：生物多様性保全型農業でふるさとの食と環境を守る

- ◆ 希少生物(ダルマガエル等)の保護を目的として、地域ぐるみで減農薬・減化学肥料による水田耕作に取り組む。
- ◆ 地域住民や小学生が参加する田植えや稲刈りなどの農業体験。

活動のきっかけ

小谷に平成8年、平成15年に、それぞれ絶滅危惧種であるギフチョウ、ダルマガエルが移植されたことをきっかけに、農事組合法人、小学校などが主な活動団体となり、移植地の保護活動を開始。

活動の構成



活動の成果

生産量

3,600kg(平成23年度) ダルマガエル米(ダルマガエル保全水田で収穫された米)の生産量

交流人口

300人(平成23年度) 絶滅危惧種の観察会、田植え、稲刈りの参加者数



活動に関するお問い合わせ先

伊尾・小谷たえクラブ

FAX:0847-24-1175(事務局)

HP: <http://ameblo.jp/sarapapa0606/>

19

いざり
伊座利の未来を考える推進協議会

親子の漁村体験・漁村留学の実践等を通じた交流・定住促進の取組



活動名称：地域内外でのつながりを通して学校と地域の灯火を守る

- ◆ 漁村体験イベントや親子で参加する漁村留学により、定住や新規漁業就業を促進。
- ◆ 海女さん等によるカフェの運営など、地域コミュニティ形成の場を創出。

活動のきっかけ

小学校の廃校を回避するため、平成12年に、都会の親子の受入れと定住を目的として、漁協等が中心となって全住民で結成。

活動の構成

伊座利の未来を
考える推進協議会

《構成員》
・町内会、漁協、学校、地域住民

漁村体験

女性有志

カフェ

多様な支援

伊座利応援団
(地域外住民 約千人)

活動の成果

交流人口

400人(平成22年度) 漁村体験イベントの参加者数
(平成23年度は台風で中止)

9,000人(平成23年度) カフェ「イザリCafe」の
来客者数



活動に関するお問い合わせ先

伊座利の未来を考える推進協議会

(伊座利漁業協同組合内)

TEL:0884-78-1185

FAX:0884-78-0512

HP: <http://www.izarijin.jp/>

20

いしだたみ

石畳地域協議会

水車小屋の復旧などによる農村景観の保全や、古民家を活用した都市部との交流



活動名称：村並み保存から地域循環型産業の創出へ

- ◆ 住民主体により水車小屋を復旧。また、地元女性グループによる古民家を利用した宿泊施設・カフェを運営。
- ◆ 農村景観を活かしたイベントにより都市部との交流で地域を活性化。

活動のきっかけ

昭和62年に、地域農家の有志が「村並み保存運動」を開始。この活動が拡大し、平成20年に自治会、営農組合など様々な団体と合流して設立。

活動の成果

交流人口

8,000人(平成23年度) 「石畳の宿」宿泊者数、イベント(水車まつり、そばまつり等)の参加者数

活動の構成

石畳地域協議会

《構成員》
・地域住民

宿泊施設
「石畳の宿」

女性有志

カフェ

イベント

農村景観保全

そばの生産・加工販売

農産加工品研究



活動に関するお問い合わせ先

石畳地域協議会(石畳の宿内)

TEL:0893-44-5730 FAX:0893-44-5740

E-mail:ishidataminoyado@hotmail.co.jp

HP:http://www.ishidatami-mm.net/

21

おがわ さくご や む ら
小川作小屋村運営協議会

多彩な食材を使った田舎料理レストランの経営による高齢者の雇用創出



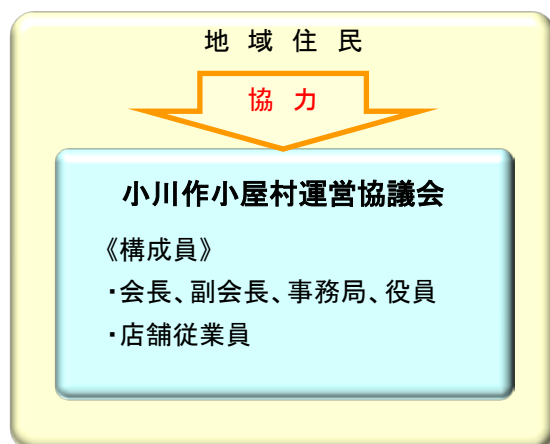
活動名称：平成の桃源郷 おがわ作小屋村づくり

- ◆ 高齢化が進む集落において、地域住民が一丸となり交流施設を運営し、Uターン者や高齢者の雇用を創出。
- ◆ 地元女性を中心に、田舎料理・創作料理を提供。

活動のきっかけ

平成14年に、村が中心となって「平成の桃源郷」を理念とする新たなむらづくりに着手。平成21年に、地域住民が中心となる運営組織を設立。

活動の構成



活動の成果

売 上

2,000万円(平成23年度) 小川作小屋村施設の売上高

雇用者数

14人(平成23年度) 小川作小屋村の従業員数



活動に関するお問い合わせ先

小川作小屋村運営協議会

TEL・FAX:0983-37-1240

HP:<http://ogawa-sakugoya.com/>